



▲ 初詣でにぎわう境内

諏訪の杜だより

四日市 諏訪神社



【創刊号】
平成25年12月号

年2回(6月・12月)発行
発行: 諏訪神社氏子総代
編集: 諏訪神社にこにこPJ
四日市市諏訪栄町22-38
TEL059-352-2422(諏訪神社)

年末年始のご案内

大みそかから年始にかけて、行く年を振り返り、新しい年を迎えるさまざまな行事が行われます。

境内では大かがり火が焚かれ、例年、大勢の参拝者が訪れています。ご家族、お知り合いやお友だちとともに、ぜひ諏訪神社で新年をお迎えください。

■ 大みそか 12月31日

16時00分〜「大祓い」一年の穢れを祓います。

19時00分〜「大かがり火」境内で火をともします。

■ お正月 1月1日

00時00分〜「新年太鼓」宮司が太鼓を打ちます。

「南浜田舞獅子奉納」。

● 甘酒のお振る舞い
協力・表参道フワマエ発展会様

● 四日市万古焼の干支置物プレゼント(1千個)
提供・佐治陶器様

11時00分〜「歳旦祭」

縁起物の授与

神棚にお祀りするお札をはじめ、新年を寿ぐ破魔矢や福さらいなどの縁起物などが授与されます。また、新年のご祈祷は随時執り行われます。



例大祭 四日市祭開催される(10月5日・6日)

二百有余年の歴史と伝統を持つ、諏訪神社の例大祭「四日市祭」が、秋晴れの下、10月5日・6日の両日に挙行されました。

5日は「四日市諏訪太鼓(同振興会)」をはじめ、合気道や諸芸能の奉納があり、また近くの公園通りでは「宵祭り」として、各団体が趣向を凝らして奉納行事を紹介するネリ宿が並び、大勢の人でにぎわいました。

そして翌6日は、午前11時より氏子総代が列席のもと、祭典が厳かに執り行われ、神の御霊に感謝し加護を祈念いたしました。

その後は、大幟が立ち献灯が並び、祭り気分もいっそうに高まる境内で、伝統にのっとり「浜田舞獅子(同保存会)」が花納めを行い獅子舞を奉納。続いて氏子町や崇敬団体自慢のネリが順次練り込みました。本年は「大名行列(旧比丘尼町)」「南浜田舞獅子(南浜田町)」「饗破り(四日市商店連合会)」「岩戸山(本町通商店街)」「菅公(旧新丁)」「鯨船・明神丸(南納屋町)」「諏訪神輿(同保存会)」が奉納され、境内に集まった大勢のみなさんも勇壮・華麗な演技を楽しみました。



▶ 祭典での舞楽の奉納



▶ 勇壮な鯨船の練り込み

諏訪神社に「こころプロジェクト」

「諏訪神社にこころプロジェクト」は、諏訪神社を中心に、門前町を盛り上げようと、平成22年9月にさまざまな職業、幅広い年代のみなさんによって立ち上げられた任意の市民活動団体です。みんなが力を合わせて活動をしていくという主旨で「こころ」を命名され、毎月22日を定例会として活動しています。

主な活動としては、境内で手作り品などを販売する『なちゆるる市場』(毎月15日)開催や『落語会・神楽亭』の開催など神社に人が集う催し、子どもを中心とした『池掃除』『ぞうきんがけ体験』など自然環境を考えた交流できる催しなどを企画実施しています。また地域の方や崇敬者の方々と協力して、国道1号と諏訪新道の交差点を「諏訪神社前」と変更する活動や、社頭に掲げる「御由緒書き」の寄進なども行いました。

今後、さまざまなことに取り組みたいと考えています。ぜひぜひご支援ください。

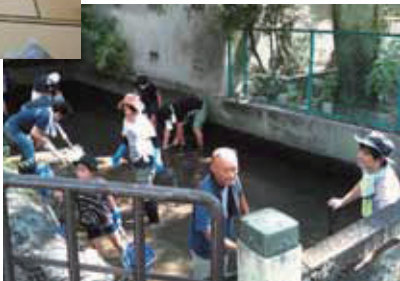
なちゆるる市場 ▶



▼ ぞうきんがけ体験



▼ 池掃除



▲ 交差点の標識

諏訪神社年間祭事の「ご案内」

- 1月1日……………歳旦祭
- 1月15日……………どんど(正月飾り等のお焚きあげ)
- 2月第1日曜日……………豆まき神事(節分祭)
- 2月17日……………祈年祭
- 4月9日……………政成稲荷神社例祭
- 6月30日……………夏越しの大祓い
- 8月第1土・日曜日(第1日曜とその前日)……………山津見神社例祭
- 10月第1土・日曜日(第1日曜とその前日)……………例大祭(四日市祭)
- 11月23日……………新嘗祭
- 12月31日……………年末の大祓い
- 毎月1日・15日……………月次祭



▲ 政成稲荷神社例祭(4月9日)



▲ どんど(1月15日)



▲ 夏越しの大祓い(6月30日)



▲ 豆まき神事(2月第1日曜日)

発刊にあたって

平素からの諏訪神社への御崇敬ならびに御奉賛に対しまして、厚く御礼を申し上げます。さてこのたび、小誌「諏訪の杜だより」を「諏訪神社にこころプロジェクト」様のご協力により、刊行することとなりました。創刊に際しまして、ひとことご挨拶を申し上げます。

近年、社会情勢の変化により、地域の絆が希薄になる中、氏神様と氏子のつながりも次第に薄れつつあります。小誌は諏訪神社で行われる四季折々の行事や新しい取り組みを紹介することで、この地域の伝統やつながりをもう一度見直していきたいと考えています。どうか末永くご支援くださいますようお願いいたします。

諏訪神社総代 伊藤誠一・伊達貫一郎

創刊号 平成25年12月15日発行

催しや行事の詳細はそれぞれのホームページをご覧ください。

【四日市 諏訪神社】

検索

【諏訪神社にこころプロジェクト】

検索

知っているようで知らない豆知識 その①
「氏神(うじがみ)と氏子(うじこ)」

氏神とは元来は、文字通り氏姓が同じの氏族の間で、先祖だと崇める神様や、氏族に縁の深い神様を祀ったこと由来し、氏神をお祀りする神社を氏神社、この血縁的な集団を氏子と呼んでいました。そして現在では、氏神社の鎮座する、周辺の一定地域に居住する方を氏子と称しています。現在のような地縁的な関係は、産土神(うぶすながみ)と産子(うぶご)という呼び方がありますが、次第に氏神と氏子という呼び方が、混同して用いられるようになってきました。

四日市の諏訪神社は旧四日市地区(おおよそ現在の中部中学校と港中学校校区)の氏神・産土神であり、この地区にお住まいの方が氏子・産子ということになります。